

2023年10月29日(日) / 説教者：神谷武宏

説教：「キリストの愛に気づかされて」

聖書：コリントの信徒への手紙一 12：27～13：13

新約聖書に出て来る「愛」は、おもに三つの言葉が使い分けられている。一つは「エロス」。次に「フィリア」、もう一つが「アガペー」。「エロス」とは人間が何かを求める動き。自分の中、まだ満たされていないものがあり、それを求めようとする欲求。「フィリア」とは「友愛」、同等関係のようなもの。そして「アガペー」は、先ほどの「エロス」とは向きが逆のもので、自分が何かを求める、自分のところに何かを持ってくるというよりも、自分が与えるということ。たとえ相手が何かをしてくれなくても、ひたすら自分が与える。これが「アガペー」である。

ヨハネ 13 章にイエスが弟子たちに新しい掟を与えるところがある。「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」(13:34-35)。ここでの「愛」は「アガペー」である。ひたすら与える愛。

もう一つ。ヨハネ 21 章に、イエスが復活した後、弟子のペトロとの会話がある。復活したイエスはペトロに「わたしを愛しているか」と聞くとペトロが「はい、主よ。わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と答える。イエスは「わたしの羊を飼いなさい」と言われた(ヨハネ 21:15-19)。このイエスからの問いは全く同じことを3回繰り返す。なぜ3回なのか。それはイエスが十字架へと向かう中でペトロがイエスのことを3度否むところがあり(ヨハネ 18:15-27)、ペトロのその罪を拭い去るかのように3度「わたしを愛しているか」と問うのかと思う。

ただ、イエスはペトロに向かって「わたしを愛しているか」と言う時の「愛」は「アガペー」が使われているのに対して、ペトロが答える「あなたを愛している」というところの「愛」は「フィリア」となっている。イエスは「アガペー」のレベルで聞いているのに対して、ペトロは「フィリア」のレベルで答えている。二人のやり取りは噛み合っていない。ペトロには「アガペー」の意味がこの時点ではまだ分からないのでいる。では、そのペトロに対してイエスはどうされたか？ペトロを叱ったか？イエスは今のペトロを受け入れ、「わたしの羊を飼いなさい」と不完全なペトロを用いてくださる。

私たちも不完全な者であろう。神の愛には行き届かない者かもしれないが、大事なことはその愛に気づかされて行くことにある。コリント 13 章には、キリストの愛は私のために、「忍耐し、・・・忍び、信じ、望み、耐える」。そのキリストの愛にきづく者でありたい。(神谷)